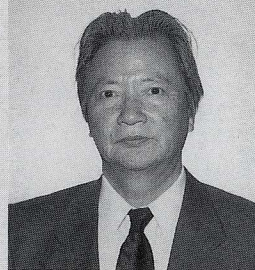


展望のもてる社会に向けて力量の発揮を

生物生産学部長 三國英實



卒業生、修了生の皆さん、卒業おめでとう。青春時代は、人生の中でも入学・就職・そして結婚という三つの大きな画期があるが、皆さんの多くは就職、進学という節目を迎え、新たな理想を抱いていることと思う。青年が未来に希望をもてる国や社会がよい社会といえるが、いま皆さんをとりまく社会環境は、必ずしも青年が見通しを持てる展望のある社会とはいえない。しかし、それだけにまた、皆さんのこれからの活躍が期待されている。とくに生物生産学部、生物園科学研究所で学んだ皆さんは、二十一世紀に向けて深刻化が予測されている食糧・環境問題等の克服に向けての力量の発揮が求められている。皆さんは、これからのいろいろな分野の仕事に就き、さまざまな人間関係を築いていくこと

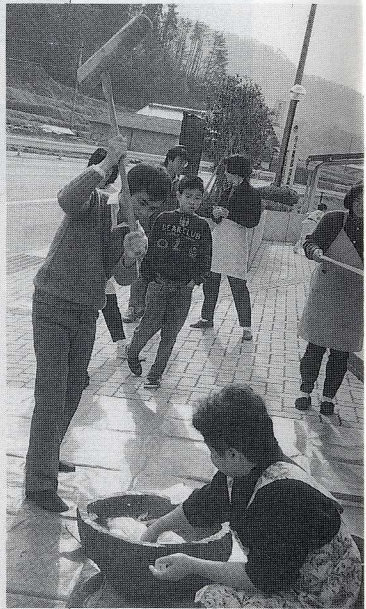
になるが、「一期一会」ということを大事にしてほしい。人間は、一人ずつ個性があつて、「長所が短所」・「短所が長所」であり、完全な人間などあり得ない。一つ一つの出会いを大切に、そこから学んで豊かな人間性を磨いてほしい。大学は、いまその役割が大きく問われており、地域や社会に開かれた大学づくりが課題となっている。卒業後も、広島大学・生物生産学部の今後の発展のために、社会での経験をもとにした皆さんの積極的な提言を望んでいる。

一期一会 — たくさんのお出合い —

生物生産学部 岡智美

卒業を目前に今までを振り返ると、三度のオリキャンが私の学生生活に影響を与えてきたように思う。新入生として参加したオリキャンでは、大学生のパワーを知った。フェローとして参加した広島大学の全学最後のオリキャンでは、たくさんの人との出会いがあり、今でも私の心の支えになる思い出となった。そして、学部だけで行われた研修センターでのオリキャン、この時の教官

これらの経験以来、人との出会いを積極的に求めるようになった。一つのお出合いがまた次の出会いを呼び、どんどん世界が広がっていった。今、私は、レクリエーションやキャンプの資格を取って活動するようになった。何か新しいものに挑戦したり、可能性を探したりするとき、この多くのお出合いが私の活動力の源になっているのだろう。これからも、いろいろな出会いを大切にしていきたいと思っている。



日本には「おひいちゃん」先生の「目」が無いのですか

生物園科学研究所博士課程後期 グエン・フリー・ユン

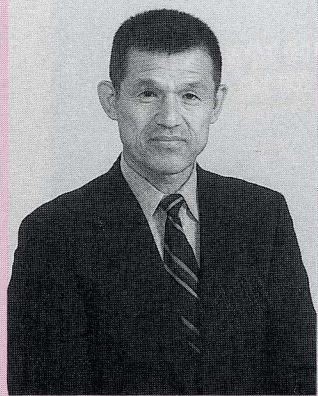
五年前、雨が降っていた寒い日に広島にやってきました。日本語の一字も知らなかったため、すぐにホームシックになりました。食堂の自動販売機で切符を買う時、かつ井のボタンしか知らなくて、毎日かつ井ばかり食べていました。時間の経過とともに日本語が少しできるようになり、日常生活も勉強も楽しくなりました。この五年半、大学で勉強しただけでなく、いろいろな活動に参加しました。友だちと釣りをしたり、野球をしたり、カラオケも歌ったり、ホスト・ファミリーと一緒に新年を迎えたり、また、田植祭、酒祭などにも参加しました。

いろいろな活動で日本語や日本の習慣・文化を習いました。日本では父の日や母の日はあるのに、どうして先生の日が無いのですか。ベトナムでは十一月二十日が先生の日です。先生の日は、お世話になった先生方のご恩に感謝する日なのです。私は「三尺下がって師の影を踏まず」という言葉を日本で習いました。また、私の娘は保育園で習った「師の恩の歌」を歌ってくれます。

宇宙にとび出せ

学生部長

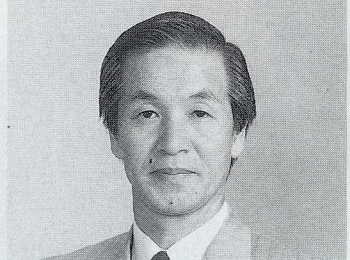
西村清巳



卒業生、修了生諸君、おめでとう。まず、ご両親、ご家族、お世話になった方々へ感謝の言葉を述べてもらいたい。ゆめ、自分一人の力で卒業したと思つてほしくない。新しい出発は、感謝の心から始めてもらいたい。不景気な世の中も、感謝の心があればスムーズに渡って行ける。つぎに、大きな夢を育ててもらいたい。就職が厳しいから、自分の希望や適性を枉げて職につくことをしてほしくない。なにも卒業と同時に職につかなくてもいいではないか。夢の実現に向けて、技を磨き実力をつけてもらいたい。往年のホームランバッター大杉勝男が、

第一期生の奮闘を祈る

大学院国際協力研究科長 山下彰一



国際協力研究科は、二年前の一九九四年四月に、広島大学の新しい独立大学院として設置された。その時の第一期生が、このたび、めでたく修士課程を修了することになった。まずは、おめでとう。この二年間は、君たちにとって「初めの尽くし」であつたと思う。英語による授業、留学生や異分野の学生との交流、進学のための総合試験、シミュット元西独首相との対話集会、などなど。ただ、君たちに申し訳なかったのは、研究科独自の建物がなく、研究室が各学部にバラバラに当てがわれ、不便をかけたことである。新校舎は新年度から着工され、一九九七年末に完成の予定である。是非とも見に来てほしい。さて、この二年間、君たちはハードな勉強に耐え、よく頑張った。ここで学んだことや

体験は、必ずや将来の糧になるものと思う。君たちは、発展途上国のさまざまな課題に取り組む人材として期待されている。しかし、世間の君たちに対する目はそう甘くない。それ故に、君たちに頑張つて欲しいのである。私たちは、早くも第一期生を送り出すことに、暗れがましい気持ちと身の引き締まる思いの両方を味わっている。どうか第一期生の誇りと自信をもって、また君たちに続く後輩たちのためにも、新しい領域を切り開いて欲しい。自分を信じ、ものごとには前向きに立ち向かっていこう。

Studying at Hiroshima University gave me an opportunity to understand Japanese culture and at the same time to introduce my country through many programs and events.

Moreover three years at Hiroshima University has allowed me to meet many people of different origin with whom I have exchanged opinions, culture and made a lasting unforgettable friendship.

It was deeply impressive to see that most of the Japanese students doing some part time jobs while working, in contrast to my country where students completely depend upon their families. With this fact in mind I am further decided to work hard than before.

Finally I want to say that what I have gained after three years in Hiroshima University was not just a degree as was planned at the beginning, I have learned many valuable things and got many benefits that I will never forget and I want to use it in many ways.



後列右端が筆者

It was not just a degree.

国際協力研究科修士課程 Anas Mohamed, K. I. アナス・モハメド

Three years have passed like a rocket since I have been in Japan. It seems to me that it was just yesterday.

I came from Sudan, the biggest African country that located in east of Africa. At the beginning I could not speak Japanese or even heard a single word in Japanese before coming to Japan and facing an absolutely different culture, language and even weather that made the first two months for me in Japan the hardest months in my entire life.

However after joining the Japanese language classes and with help of many friends my life became easier and returned normally. Although the main aim for coming to Japan was to study and getting a degree, being student at Hiroshima University allowed me to learn many valuable things that will help me in my future life.

Beside learning new language I have learned how to work hard, respect time and working with other student cooperatively in a group spirit rather than individually. One of the most impressive thing that I have observed during my study in Hiroshima University is the mutual friendly relation between students and the staff members. It is heartwarming to see many professors sharing students in many activities and events voluntarily in a mutual friendly society.

国際協力研究科

「月に向かって打て」とコーチに言われてそれを表現したように、チャンスが到来したとき、それを掴むことができる力を養っておいってもらいたい。いまや、宇宙にとび出す夢が実現できる。秋山、毛利、向井、若田に続け。たゆまない努力とチャレンジする心を失っては、夢は実現しない。むずかしいから避けて通るのではなく、むずかしいから、やり甲斐があると思つて挑戦してもらいたい。とかく、困難が予想されると方針を変え、わがままが行動の基準になりがちである。そんな日常から脱皮して、大きな夢の実現に向けてチャレンジしてもらいたい。